

北東アジア動向分析

2023年1月

ERINA

中国（東北三省）

2022年1-9月期における東北三省主要経済指標

中国国家统计局の発表によると、2022年1-9月期における中国の国内総生産（GDP）は、87兆269億元（名目値）であり、実質GDP成長率は前年同期比3.0%となった。そのうち、2022年1-9月期の東北三省の域内総生産（GRP）の名目値と実質GRP成長率は、遼寧省が2兆797億元で前年比2.1%増、吉林省が9433億元で同1.6%減、黒龍江省が1兆467億元で同2.9%増となった。三省のGRPの産業別の内訳をみると、2022年1-9月期における遼寧省の第1次産業の付加価値額は1536.5億元で前年比3.0%増、第2次産業は8587.5億元で同0.1%減、第3次産業は1兆673億元で同3.4%増となった。吉林省の第1次産業の付加価値額は699.4億元で同2.9%増、第2次産業は3471.8億元で同2.7%減、第3次産業は5261.9億元で同1.6%減となった。黒龍江省の第1次産業の付加価値額は1153.6億元で同3.0%増、第2次産業は3530.1億元で1.0%増、第3次産業は57833億元で3.8%増となった。

東北三省の工業生産の動向をみると、2022年1-9月期の一定規模以上の工業企業（年間売上高2000万元以上）の付加価値増加率は、遼寧省が前年同期比1.5%減、吉林省が同2.5%減、黒龍江省が同1.0%増になった。さらに、主な産業部門別の数値をみると、遼寧省では設備製造業が同2.9%増、建材製造業が同11.7%減となり、吉林省では自動車製造業が同7.0%減、建材製造業が同16.5%減となり、黒龍江省では設備製造業が同5.6%増、食品製造業が同5.2%増となった。

投資については、2022年1-9月期における遼寧省の固定資産投資額（農家投資を除く：以下同じ）は前年同期比3.3%増、吉林省は同6.9%減、黒龍江省は同2.4%増であった。固定資産投資額の産業別の内訳をみると、遼寧省の第1次産業は前年同期比0.8%減、第2次産業は同8.2%増、第3次産業は同1.2%増であった。吉林省の第1次産業の固定資産投資額は同69.9%増、第2次産業は同8.3%増、第3次産業は同13.5%減であった。黒龍江省の第1次産業の固定資産投資額は同28.7%増、第2次産業は同9.8%増となった。

消費動向をみると、2022年1-9月期の社会的消費財小売総額は、遼寧省が7057.3億元で前年同期比1.5%減、吉林省が2701.2億元で同8.1%減、黒龍江省が3678.3億元で同4.3%減となった。消費者物価指数（CPI）は、遼寧省が前年同期比2.1%上昇、吉林省が同2.2%上昇、黒龍江省が同2.0%上昇した。

貿易動向をみると、2022年1-9月期の輸出入額は、遼寧省が5986.7億元で前年同期比3.3%増、吉林省が1153.1億元で同1.9%減、黒龍江省が1901.5億元で同30.5%増となった。内訳をみると、遼寧省では輸出額が2742.2億元で同12.3%増、輸入額が3244.6億元で同3.2%減となり、吉林省では輸出額が365.8億元で

同 48.0%増、輸入額が 787.3 億元で同 15.2%減となり、黒龍江省では輸出額が 363.6 億元で同 17.2%増、輸入額が 1537.9 億元で同 34.1%増となった。

ハイテク産業をみると、2022 年 1-9 月期における中国のハイテク製造産業の固定資産投資額は同 23.4%増となり、一定規模以上のハイテク製造産業の付加価値は前年同期比 8.5%増となった。東北三省をみると、2022 年 1-9 月期における遼寧省のハイテク産業の付加価値は同 18.7%増となった。吉林省の一定規模以上のハイテク製造産業の付加価値は同 1.5%増となった。黒龍江省ではハイテク産業の増加率が公表されてないが、ハイテク製造産業への固定資産投資額は同 9.8%増と示されている。

(ERINA 調査研究部研究員 董 琪)

		2020年				2021年				2022年上半期			
		中国	遼寧	吉林	黒龍江	中国	遼寧	吉林	黒龍江	中国	遼寧	吉林	黒龍江
経済成長率(実質)	%	2.3	0.6	2.4	1.0	8.1	5.8	6.6	6.1	2.5	1.5	▲ 6.0	2.8
工業生産伸び率(付加価値額)	%	2.4	1.8	6.9	3.3	9.6	4.6	4.6	7.3	3.4	▲ 3.0	▲ 11.5	3.5
固定資産投資伸び率(名目)	%	2.9	2.6	8.3	3.6	4.9	2.6	11.0	6.4	6.1	3.0	▲ 14.3	6.9
社会的消費財小売額伸び率(名目)	%	▲ 3.9	▲ 7.3	▲ 9.2	▲ 9.1	12.5	9.2	10.3	8.8	▲ 0.7	▲ 2.9	▲ 11.7	▲ 3.2
輸出入収支	億ドル	5,350.3	▲ 189.4	▲ 106.8	▲ 124.6	6,837.1	▲ 172.0	▲ 124.7	▲ 172.1	3,881.2	▲ 68.4	▲ 44.8	▲ 119.4
輸出伸び率	%	3.6	▲ 15.3	▲ 10.3	3.2	21.2	24.9	21.5	24.4	13.2	8.7	37.0	14.1
輸入伸び率	%	▲ 1.1	▲ 5.8	1.1	▲ 22.5	21.5	12.6	16.0	31.2	4.8	▲ 2.8	▲ 17.5	35.3

(注)前年比

工業生産は、一定規模以上の工業企業のみを対象とする。2011年1月には、一定規模以上の工業企業の最低基準をこれまでの本業の年間売上高500万元から2,000万元に引き上げた。

2011年1月以降、固定資産投資は500万元以上の投資プロジェクトを統計の対象とするが、農家を含まない。

2019年以降の貿易データは公表値が元建であったことから、輸出・輸入の伸び率は公表されている元建数値の伸び率、貿易収支は元建貿易収支の数値を人民銀行公表の期末為替レート

(2019年12月末:7.0128、2020年12月末:6.5434、2021年12月末:6.3897)によりドル建てに修正したものである。

(出所)中国国家统计局、商務部、遼寧省統計局、吉林省統計局、黒龍江省統計局ウェブサイトならびに黒龍江日報、遼寧日報、吉林日報、人民銀行の資料より作成。

ロシア

2022年のロシア経済

ロシアによるウクライナへの侵攻とこれに対する西側諸国による経済制裁はロシア経済に対して負の影響を与えている。ただし、その度合いは春先に国内外で予想されたほどではない。

四半期ごとのGDP成長率（前年同期比）は、戦争開始前を含む第1四半期こそ3.5%のプラスだったが、第2、第3四半期はそれぞれ4.1%、3.7%のマイナス成長となった。第4四半期、そして通年でもマイナス成長となることは確実である。ロシア中央銀行が外部エコノミストを対象に行っているコンセンサス調査では、12月時点での2022年経済成長率予測はマイナス2.9%となった。ロシア中銀自体の予測は、2022年10月時点でマイナス3.5~3.0%であったから、直近のエコノミストらの予測はそれよりも楽観的である。さかのぼって、IMFの4月時点での予測（マイナス8.52%）、世界銀行の6月時点での予測（マイナス8.9%）を思い起こすと、ロシア経済はかなり持ちこたえていると言えよう。

1~11月の主要産業の生産動向を見てみると、全体として低調であることは確かだが、意外と健闘している分野がある。鉱工業生産全体では、前年同期比マイナス0.1%となっているが、鉱業だけを取り出すとプラス1.1%となっている。原油生産量が2.2%増加していることなどが寄与している模様だ。これに対して、製造業の1~11月の生産は前年同期比0.8%のマイナスであった。特に落ち込みが大きいのは自動車産業で、マイナス44.4%もの大幅減となっている。主要な外資自動車メーカーがロシアでの生産を停止、撤退したことの影響が如実に表れ、1~11月の乗用車生産台数は前年同期の3分の1にまで減少した。他方で、輸入代替が起こったと思われる製品群もある。コンピューターや電子・光学機器の生産が4.0%増加した他、飲料が3.3%、衣類が1.3%、それぞれ増加した。このほか、農業生産も4.7%増加した。

国民の消費動向にもバラツキが見られる。春以降、小売売上高が対前年同月比でマイナスを続けているのに対し、サービス売上高はプラスを維持している。例えば、交通サービスの売上高は、1~11月の累計で対前年同期比4.1%増加した。

消費者物価は4月ころまで急速に上昇したこともあり、11月末時点の消費者物価は前年末と比べて11.1%高い水準にある。ただし、消費者物価の動向は夏以降落ち着いた。その背景として、通貨ルーブルの為替レートが比較的高い水準で安定していることが指摘できる。

2023年連邦予算

ロシア政府は毎年秋に翌年以降3か年の中期経済見通しを作成し、これに基づ

いて3か年予算を編成して、年内に予算法として成立させる。2022年9月にロシア政府が発表した経済見通しでは、2023年度の経済成長率をマイナス0.8%としている。原油価格が低下すること、天然ガス輸出量が減少することなどから輸出総額は2022年よりも減少すると予測している。

こうした経済見通しの下、2023年の連邦予算はGDPの2.0%に相当する赤字を見込んでいる。歳入面において、石油や天然ガスの採掘税や輸出税などを原資とする「石油ガス歳入」が減少（GDP比2.0%相当）する影響が大きい。歳出面では、「国家安全保障・治安維持」が2022年のGDP比1.9%相当から同2.9%相当へと大きく増えることが際立つ。これとは別に、国防費（同3.3%相当）が計上されており、まさしく「戦時財政」を組んでいると言えよう。赤字の補填には、主に国民福祉基金からの繰り入れと国債発行を活用する計画である。国民福祉基金残高は、2021年末時点で対GDP比10.4%あったが、2年続けて赤字補填のために取り崩すことで、2023年末には同4.2%まで減少する見込みである。

なお、これらの経済見通しや予算は、政府公式の立場を公表したものであり、厳しい現実を糊塗して、国民や外国向けに外面を取り繕ったものと考えるのが妥当であろう。例えば、2023年のウラル原油の平均価格を1バレル70.1ドルと予測しているが、2022年12月には西側諸国が1バレル60ドルという上限価格を設定し、現実に同月のウラル原油の平均価格は60ドルを下回っている。このままいけば財政赤字が予算より拡大し、経済の落ち込みも大きくなるだろう。

（ERINA 調査研究部長・主任研究員 新井洋史）

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
GDP・実質成長率 (%) ⁽¹⁾	4.0	1.8	0.7	▲ 2.0	0.2	1.8	2.8	2.2	▲ 2.7	4.7
固定資本投資・実質増減率 (%) ⁽¹⁾	6.8	0.8	▲ 1.5	▲ 10.1	▲ 0.2	4.8	5.4	2.1	▲ 0.5	7.7
鉱工業生産高・実質増減率 (%) ⁽²⁾	3.4	0.4	2.0	0.2	1.8	3.7	3.5	3.4	▲ 2.1	6.4
輸送貨物量・実質増減率 (%) ⁽¹⁾	2.9	0.6	▲ 0.1	0.6	1.8	5.6	2.7	0.8	▲ 4.9	5.6
小売売上高・実質増減率 (%) ⁽¹⁾	6.3	3.9	2.7	▲ 10.0	▲ 4.8	1.3	2.8	1.9	▲ 3.2	7.8
サービス売上高・実質増減率 (%) ⁽¹⁾	3.7	2.1	1.3	▲ 2.0	▲ 0.3	0.2	3.2	1.7	▲ 14.6	16.7
実質貨幣可処分所得・増減率 (%) ⁽¹⁾	4.6	4.0	▲ 1.2	▲ 2.4	▲ 4.5	▲ 0.5	0.7	1.2	▲ 2.0	3.0
消費者物価 (%) ⁽³⁾	6.6	6.5	11.4	12.9	5.4	2.5	4.3	3.0	4.9	8.4
輸出額 (10億ドル、通関データ) ⁽⁴⁾	524.7	526.0	497.4	343.5	285.7	357.3	450.3	424.3	337.1	491.6
輸入額 (10億ドル、通関データ) ⁽⁴⁾	317.3	315.3	287.1	182.9	182.4	227.9	238.7	244.6	231.7	293.4
為替相場 (ドル/ルーブル) ⁽⁵⁾	30.4	32.7	56.3	72.9	60.7	57.6	69.5	61.9	73.9	74.3
原油価格 (ブレント、ドル/バレル) ⁽⁶⁾	111.6	108.6	99.0	52.3	43.6	54.1	71.3	64.3	42.0	70.9

	2021				2022			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
GDP・実質成長率 (%) ⁽¹⁾	▲ 0.3	10.5	4.0	5.0	3.5	▲ 4.1	▲ 3.7	
固定資本投資・実質増減率 (%) ⁽¹⁾	3.3	11.0	7.9	7.6	12.8	4.1	3.1	
鉱工業生産高・実質増減率 (%) ⁽²⁾	▲ 0.3	11.1	7.1	7.9	5.1	▲ 2.5	▲ 1.3	
輸送貨物量・実質増減率 (%) ⁽¹⁾	0.5	10.2	7.0	4.8	4.2	▲ 3.0	▲ 5.5	
小売売上高・実質増減率 (%) ⁽¹⁾	▲ 1.4	24.3	5.9	4.7	3.5	▲ 9.8	▲ 9.4	
サービス売上高・実質増減率 (%) ⁽¹⁾	▲ 3.2	53.2	16.4	12.6	7.8	0.0	1.3	
実質貨幣可処分所得・増減率 (%) ⁽¹⁾	▲ 4.0	7.0	8.9	0.0	▲ 1.2	▲ 0.8	▲ 3.4	
消費者物価 (%) ⁽³⁾	5.6	6.0	6.8	8.3	11.5	16.9	14.4	
輸出額 (10億ドル、通関データ) ⁽⁴⁾	93.7	115.4	131.9	150.6	-	-	-	
輸入額 (10億ドル、通関データ) ⁽⁴⁾	62.4	74.1	75.1	81.8	-	-	-	
為替相場 (ドル/ルーブル) ⁽⁵⁾	75.5	73.4	73.2	73.3	81.8	51.6	59.7	
原油価格 (ブレント、ドル/バレル) ⁽⁶⁾	60.8	68.8	73.5	79.6	100.3	113.5	100.7	

	2021											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
経済基礎部門商品・サービス生産高 ⁽⁷⁾	▲1.5	▲2.1	3.4	13.7	14.3	11.3	6.2	4.0	4.1	6.0	7.0	5.6
鉱工業生産高・実質増減率(%) ⁽²⁾	▲1.6	▲2.4	2.9	9.0	13.1	11.5	7.9	5.6	7.9	8.3	7.9	7.5
輸送貨物量・実質増減率(%) ⁽¹⁾	▲2.1	▲0.6	4.1	6.3	11.4	13.3	9.5	6.2	5.4	5.9	5.7	2.9
小売売上高・実質増減率(%) ⁽¹⁾	1.1	▲0.7	▲2.5	36.3	28.0	11.5	5.7	5.8	6.2	4.6	3.6	5.6
サービス売上高・実質増減率(%) ⁽¹⁾	▲8.9	▲5.3	4.7	59.8	60.2	41.2	21.9	15.2	12.7	13.0	14.0	10.9
消費者物価(%) ⁽³⁾	0.7	0.8	0.7	0.6	0.7	0.7	0.3	0.2	0.6	1.1	1.0	0.8
輸出額(10億ドル、通関データ) ⁽⁴⁾	27.0	30.2	36.5	36.9	35.3	43.2	43.4	43.0	45.4	46.1	47.7	56.8
輸入額(10億ドル、通関データ) ⁽⁴⁾	16.8	20.6	25.0	25.3	23.9	24.8	25.4	25.1	24.6	25.6	26.8	29.4
為替相場(ドル/ルーブル) ⁽⁵⁾	76.3	74.4	75.7	74.4	73.6	72.4	73.1	73.6	72.8	70.5	75.0	74.3
原油価格(ブレント、ドル/バレル) ⁽⁶⁾	54.8	62.3	65.4	64.8	68.5	73.2	75.2	70.8	74.5	83.5	81.1	74.2

	2022											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
経済基礎部門商品・サービス生産高 ⁽⁷⁾	7.7	4.8	1.6	▲2.9	▲3.5	▲4.7	▲2.9	▲1.5	▲3.5	▲3.2	▲2.5	
鉱工業生産高・実質増減率(%) ⁽²⁾	8.0	5.4	2.3	▲2.6	▲2.4	▲2.4	▲0.5	▲0.1	▲3.1	▲2.6	▲1.8	
輸送貨物量・実質増減率(%) ⁽¹⁾	7.8	1.1	3.6	▲1.4	▲1.8	▲5.8	▲5.2	▲4.1	▲7.1	▲6.7	▲5.7	
小売売上高・実質増減率(%) ⁽¹⁾	3.1	5.5	2.0	▲9.8	▲10.1	▲9.6	▲9.0	▲9.1	▲10.2	▲10.0	▲7.9	
サービス売上高・実質増減率(%) ⁽¹⁾	11.6	8.2	4.0	0.9	1.2	1.5	1.6	3.5	1.1	1.5	2.0	
消費者物価(%) ⁽³⁾	1.0	1.2	7.6	1.6	0.1	▲0.3	▲0.4	▲0.5	0.1	0.2	0.4	
輸出額(10億ドル、通関データ) ⁽⁴⁾	45.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
輸入額(10億ドル、通関データ) ⁽⁴⁾	23.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
為替相場(ドル/ルーブル) ⁽⁵⁾	77.8	83.6	84.1	71.0	63.1	51.2	61.3	60.4	57.4	61.5	61.1	
原油価格(ブレント、ドル/バレル) ⁽⁶⁾	86.5	97.1	117.3	104.6	113.3	122.7	111.9	100.5	89.8	93.3	91.4	

出所・注：

- (1) 『ロシア短期経済指標(2022年11月)』(2022年12月29日)の数値。
- (2) OKVED・第2版の産業部門分類(2018年価格)に基づく。『ロシア短期経済指標(2022年11月)』(2022年12月29日)の数値。
- (3) 年次データは前年12月比、月次データは前月末比の増減率で、『ロシア短期経済指標(2022年11月)』(2022年12月29日)の数値。四半期データは対前年同期比で、ロシア連邦統計庁ウェブサイト掲載値(2022年10月12日更新値)。
- (4) ロシアは2022年2月以降、通関統計の公表を取りやめている。2022年1月分はロシア連邦税関(2022年3月10日公表値)、それ以外はロシア連邦統計庁の既報値。
- (5) 年次・月次データは、期末の数値。四半期は月次データの単純平均値。『ロシア短期経済指標(2022年11月)』(2022年12月29日)の数値。
- (6) スポット価格。四半期データは月次データの単純平均値。アメリカ合衆国エネルギー省(2022年12月29日更新値)。
- (7) 前年同月比増減率(%)。ロシア連邦統計庁の公表値(2022年12月28日)。

モンゴル

モンゴル経済は、COVID-19 パンデミックの影響を受けた深刻な収縮から、2022 年も緩やかに回復し続けた。モンゴル銀行は、自国通貨の利子率を維持し、上昇するインフレを抑制するに引き締めの金融政策を継続した。

マクロ経済

モンゴルの実質四半期 GDP は、2022 年第 1 四半期に前年比 3.9%減で 3 四半期連続で縮小しましたが、第 2 四半期は前年比 6.3%、第 3 四半期は前年比 7.1% の成長となり、1-9 月期で前年比 3.7% の成長となった。サービス部門と農業部門が成長の主な原動力となった。第 3 四半期の季節調整済みの実質 GDP は、前四半期から 0.1%高くなっている。1-9 月期の名目 GDP は 35.2 兆トゥグルグであった (図 1)。

需要面では、最終消費と総資本形成が成長の原動力となったが、純輸出は引き続きマイナスに寄与した。最終消費は 2022 年の 1-9 月期に 5.3 ポイントの成長をもたらした。第 1 四半期、第 2 四半期、第 3 四半期では、それぞれ 6.6 ポイント、4.2 ポイント、5.2 ポイント に相当した。総資本形成の寄与度は、第 1 四半期と第 2 四半期にそれぞれプラス 5.0 ポイント と 26.5 ポイント だったが、第 3 四半期にはマイナス 3.7 ポイント になった。総資本形成は 1-9 月期に成長に 9.3 ポイントのプラスの貢献をした。同時に純輸出は 1-9 月期の成長にマイナス 10.8 ポイント 寄与した。四半期ごとでは、第 3 四半期の純輸出は 5.4 ポイント のプラスの寄与だったが、それ以前の 2 四半期はマイナスだった (図 2)。

実質鉱工業生産 (GIO) は、2022 年第 3 四半期まで 4 四半期連続で減少し、1-9 月期で前年比 7.5% の縮小となった。石炭、銅精鉱、原油など、主要な鉱業部門の生産量は、非貨幣用金と銀精鉱を除いて、前年よりも低かった。製造業部門の生産も、肉、牛乳、小麦粉、たばこ、練炭、鋼片など、主要品目のほとんどで前年を下回ったが、アルコール飲料とノンアルコール飲料、カシミア製品、石灰の生産は前年を上回った。

消費者物価指数 (CPI) は引き続き上昇し、2022 年第 2 四半期には 16.3%、第 3 四半期には 14.9% に達した。CPI 上昇の主な要因は、食品と衣料品の価格上昇であった。食料品と衣料品のシェアは、全品目の 25.1%と 12.3%にそれぞれ相当する。

モンゴルの通貨トゥグルグは引き続き減価し、2022 年第 3 四半期の 1 米ドルに対する平均名目為替レートは 3199 トゥグルグで、前年比 12.3%の減価となった。輸出の減少と輸入の増加は通貨下落の引き金となった。

2022 年 9 月末のマネーサプライ (M2) は 27.5 兆トゥグルグ (84.3 億米ドル)

で、前年比 0.8% 増加しました。モンゴル銀行は、2020 年から 2021 年にかけて導入した金融緩和政策を撤回し、政策金利を当初の 6%から 2022 年 1 月末には 6.5% に引き上げ、さらに 3 月には 9.0%、6 月には 10%、9 月には 12%に引き上げた。12 月には 13%となり、2017 年 5 月以来の高水準となった。その結果、融資残高の伸びは 4 月末の前年比 28.9% から 9 月末には前年比 13.7%、11 月末の前年比 12% まで低下し、11 月末の融資残高は 22.4 兆トゥグルグとなった。同時に、不良債権の割合は、2022 年 3 月末の 9.7%から 2022 年 9 月末には 11.2% に増加しました。

国家予算は、2022 年 1-9 月期において 9621 億トゥグルグの赤字で、赤字幅は 1 年前より 24.7% 減少した。総収入と助成金の合計は 11.5 兆トゥグルグ（前年比 19.1% 増）で、総支出と純貸付は 12.5 兆（前年比 14% 増）となった。予算支出は、経常支出、設備投資、純貸出のすべての項目で前年を上回った。

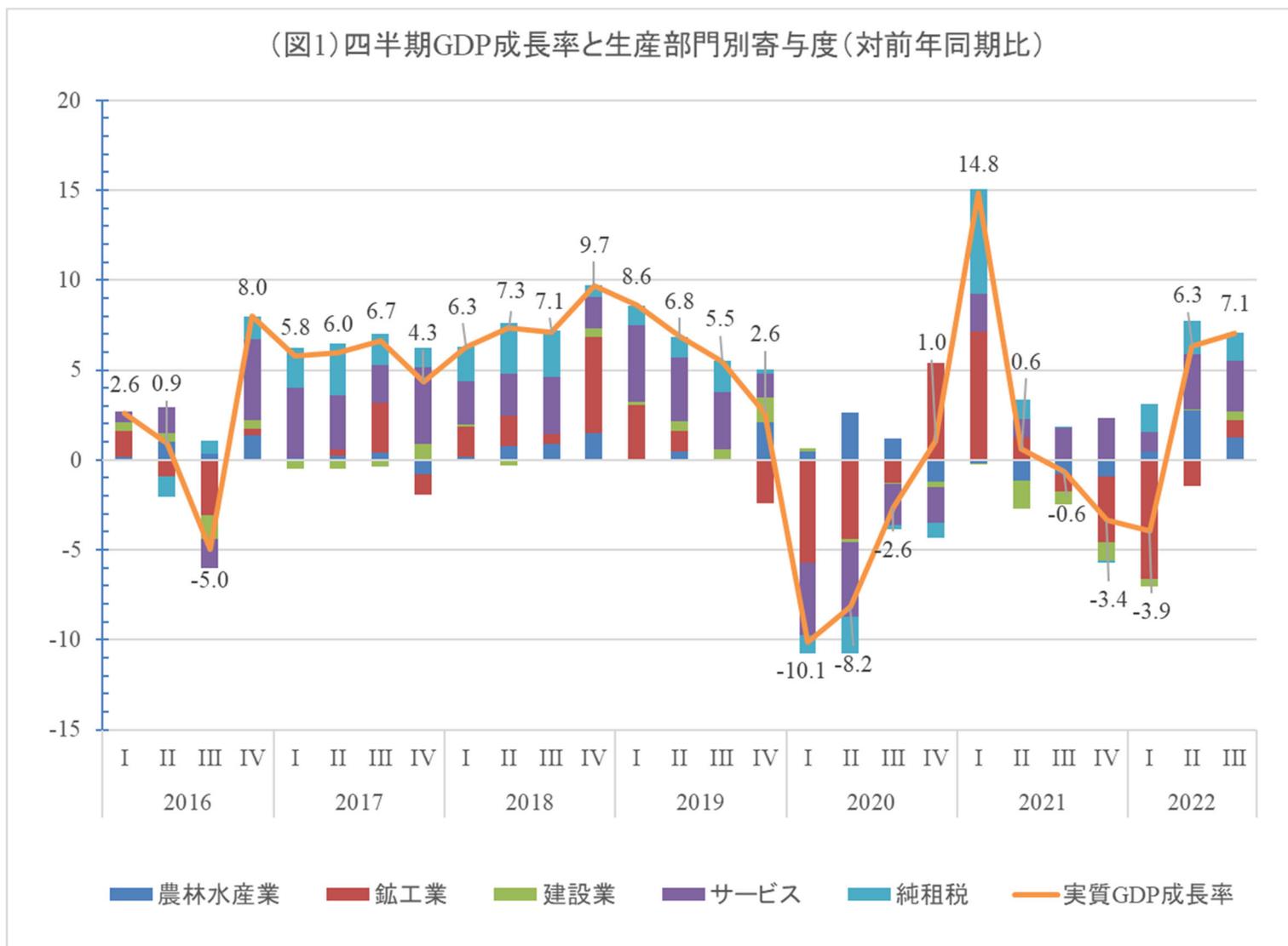
外国貿易

2022 年 1-9 月期に、モンゴルは 156 カ国と貿易を行った。総貿易額は 151 億ドルに達し、輸出は 89 億ドル、輸入は 64 億ドルで、貿易収支は 25 億 6000 万ドルの黒字となった。輸出と輸入はそれぞれ前年比 39.4% と 24% 増加した。輸出が増加したのは、主に石炭と非貨幣用金であった。モンゴルはこの期間に 1900 万トンの石炭と 9.9 トンの非貨幣用金を輸出した。石炭の輸出額は 450 万ドルで、前年の 3 倍に達した。中国は引き続きモンゴルの最大の輸出先であるが、石炭は対中国輸出全体の 54.2%を占めている。

中国は同時に 2022 年 1-9 月期のモンゴルの最大の輸入元となり、ロシアと日本がそれに続いた。これらの国からの輸入は、それぞれ全体の 35.1%、29.9%、8.3%であった。モンゴルのロシアからの輸入の 60%が石油製品であるのに対し、モンゴルの日本からの輸入の 66.1%は乗用車であった。

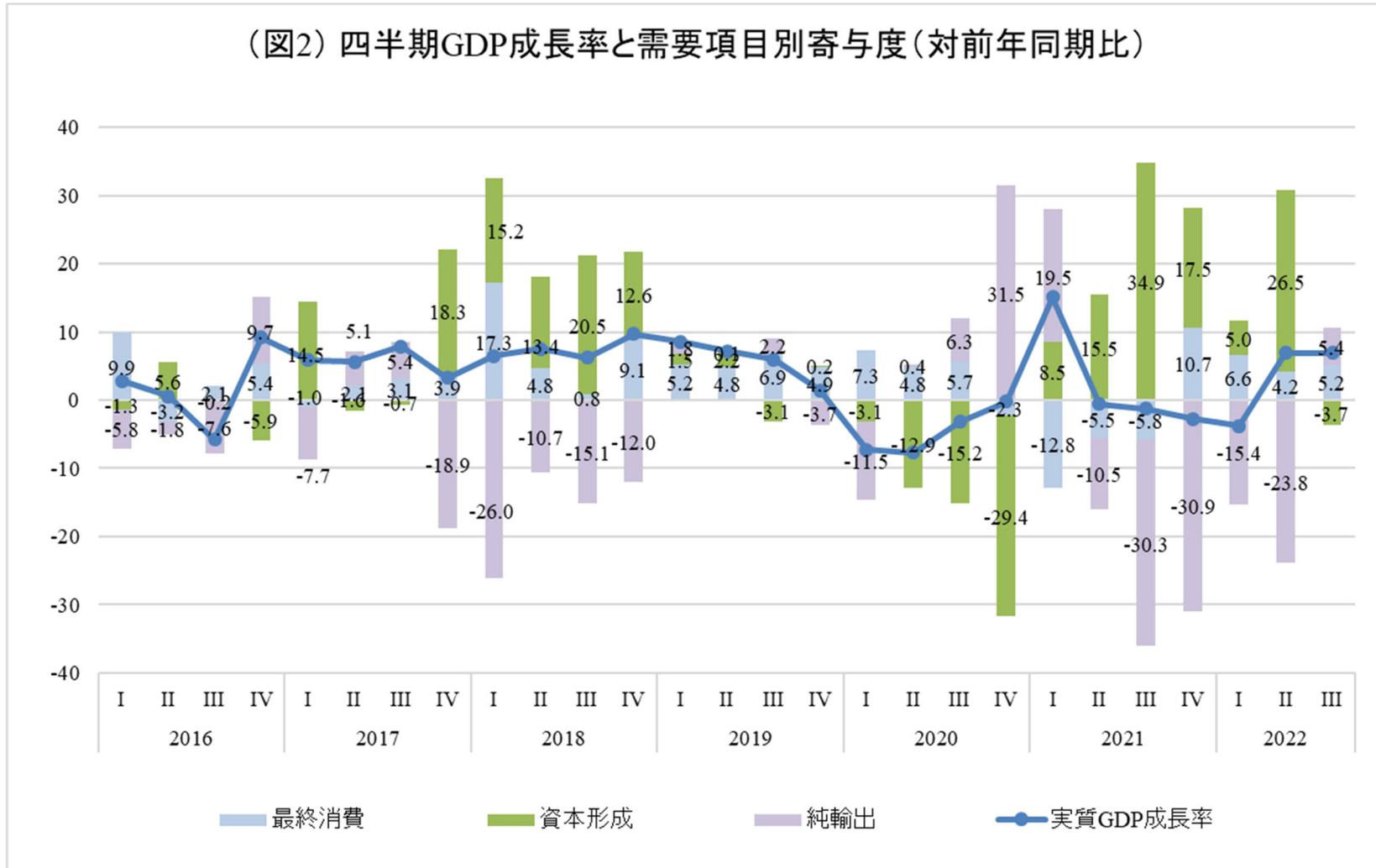
(ERINA 調査研究部主任研究員 エンクバヤル・シャクダル)

(図1) 四半期GDP成長率と生産部門別寄与度(対前年同期比)



(出所) モンゴル国家統計局

(図2) 四半期GDP成長率と需要項目別寄与度(対前年同期比)



(出所) モンゴル国家統計局

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2021年1Q	2021年2Q	2021年3Q	2021年4Q	2022年1Q	2022年2Q	2022年3Q	2022年1-9月
名目国内総生産(兆トゥグルグ)	23.9	28.0	32.6	37.8	37.5	43.6	9.26	10.60	10.07	13.63	9.58	13.44	12.21	35.2
実質GDP成長率(対前年同期比:%)	1.5	5.6	7.7	5.6	▲4.6	1.6	14.8	0.6	▲0.6	▲3.4	▲3.9	6.3	7.1	3.7
鉱工業生産額(対前年同期比:%)	▲0.3	5.1	6.4	1.7	▲1.6	49.3	71.1	50.5	47.5	28.1	▲7.2	▲6.4	▲8.7	▲7.5
消費者物価上昇率(対前年同期比:%)	0.8	4.3	6.8	7.3	3.7	7.1	2.5	6.0	9.2	11.7	15.4	16.3	14.9	15.5
失業率(%)	10.0	8.8	7.8	10.0	7.0	8.1	8.8	8.4	7.4	8.1	8.5	7.8	5.4	7.2
対ドル為替レート(トゥグルグ)	2,148	2,441	2,473	2,664	2,813	2,849	2,850	2,850	2,849	2,849	2,869	3,092	3,199	3,053
貨幣供給量(M2)の変化(対前年同期比:%)	21.0	30.5	22.8	8.2	16.2	13.8	22.9	29.6	20.2	13.8	4.2	▲1.3	0.8	0.8
融資残高の変化(対前年同期比:%)	6.1	9.6	26.5	5.0	▲5.0	21.3	2.8	10.3	16.5	21.3	25.2	22.6	13.7	13.7
不良債権比率(%)	8.5	8.5	10.4	10.1	11.8	10.0	11.5	10.3	9.9	10.0	9.7	9.0	11.2	11.2
貿易収支(百万USDドル)	1,558	1,863	1,137	1,492	2,277	2,398	477	373	448	1,126	230	1,130	1,203	2,563
輸出(百万USDドル)	4,916	6,201	7,012	7,620	7,576	9,247	2,000	2,111	2,313	2,848	1,921	3,388	3,611	8,920
輸入(百万USDドル)	3,358	4,337	5,875	6,128	5,299	6,849	1,524	1,737	1,865	1,722	1,691	2,257	2,408	6,356
国家財政収支(十億トゥグルグ)	▲3,660	▲1,742	3	▲756	▲4,539	▲2,909	▲96	▲973	▲208	▲1,631	▲255	▲589	▲118	▲962
国内貨物輸送(対前年同期比:%)	20.0	15.3	14.6	7.4	1.1	▲13.2	15.7	0.7	▲24.2	▲34.0	▲38.0	▲26.7	▲13.4	▲26.2
国内鉄道貨物輸送(対前年同期比:%)	7.9	9.1	13.5	13.5	10.3	▲4.1	4.0	1.5	▲5.4	▲17.2	▲32.0	▲28.3	▲22.5	▲27.2
国内道路貨物輸送(対前年同期比:%)	78.4	33.6	17.3	▲6.6	▲24.5	▲50.6	94.1	257.0	▲76.8	▲81.1	▲51.0	▲15.0	128.4	▲19.7
成畜死亡数(千頭)	1,452	888	2,635	1,118	2,064	3,012	1,049	1,339	18	607	67	151	141	359

(注) 消費者物価上昇率、登録失業者数、貨幣供給量、融資残高、不良債権比率は期末値、為替レートは期中平均値。

(出所) モンゴル国家統計局『モンゴル統計年鑑』、『モンゴル統計月報』各号 ほか

韓国

マクロ経済動向

韓国銀行（中央銀行）が 2022 年 12 月 1 日に公表した 2022 年第 3 四半期の成長率（改定値）は、季節調整値で前期比 0.3%となり、前期の同 0.7%を下回った。需要項目別に見ると内需では、最終消費支出は同 1.2%で前期の同 2.3%から低下した。固定資本形成は同 3.0%で前期の同 0.3%から上昇した。その内訳では建設投資は同▲0.2%で前期の同 0.2%からマイナスに転じた。設備投資は同 7.9%で前期の同 0.5%から上昇した。外需である財・サービスの輸出は、半導体の輸出が減少したが、輸送機械、サービスの輸出が増加して同 1.1%となり、前期の同▲3.1%からプラスに転じた。

2022 年第 3 四半期の鉱工業生産指数伸び率は季節調整値で前期比▲1.5%となり、前期の同▲1.6%からマイナス幅が縮小した。月次では季節調整値で、2022 年 10 月に前月比▲3.5%、11 月に同 0.4%となっている。

2022 年第 3 四半期の失業率は季節調整値で 2.7%であった。月次では 2022 年 10 月に 2.8%、11 月は 2.9%となっている。

2022 年第 3 四半期の貿易収支（IMF 方式）は 54 億ドルの赤字で前期の 93 億ドルの黒字から赤字に転じている。また 10 月の貿易収支は 15 億ドルの赤字であった。

2022 年第 3 四半期の対ドル為替レートは 1 ドル＝1340 ウォン、月次では 2022 年 10 月に同 1426 ウォン、11 月に同 1358 ウォン、12 月に同 1294 ウォンと推移している。

2022 年第 3 四半期の消費者物価上昇率は前年同期比 5.9%であった。月次では 2022 年 10 月に前年同月比 5.7%、11 月に同 5.0%、12 月に同 5.0%であった。2022 年第 3 四半期の生産者物価上昇率は前年同期比 8.4%であった。月次では 2022 年 10 月に前年同月比 7.3%、11 月に同 6.3%と推移している。

2023 年及び 2024 年の経済展望

韓国銀行は 2022 年 11 月 24 日に経済見通しを発表した。

2022 年の成長率については 2.6%としている。2021 年の 4.1%から低下する。また 2023 年の成長率は 1.7%、2024 年の成長率は 2.3%としている。2023 年の成長率については、年前半が前年同期比 1.3%、年後半が同 2.1%と予測している。

2023 年の成長率を需要項目別に見ると、内需は民間消費が 1.7%となり、2022 年予測の 2.6%から低下する。一方、設備投資は▲3.1%となり、2022 年予測の▲2.0%からさらに低下する。建設投資は▲0.2%となり、2022 年予測の▲2.4%からマイナス幅が縮小する。財の輸出は 0.7%となり、2022 年予測の 3.4%から低下す

る。

2023年の失業率については3.4%で2022年予測の3.0%から上昇するとしている。雇員者数の変化は9万人の増加で、2022年予測82万人の増加から低下すると見込んでいる。2024年については、失業率は3.3%、雇員者数の増加は15万人としている。

一方、2023年の消費者物価上昇率は3.6%で、2022年予測の5.1%から低下すると予測している。2024年については2.5%としている。

(ERINA 調査研究部主任研究員 中島朋義)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	21年10-12月	22年1-3月	4-6月	7-9月	22年10月	11月	12月
実質国内総生産(%)	3.2	2.9	2.2	▲ 0.9	4.0	1.3	0.6	0.7	0.3	-	-	-
最終消費支出(%)	3.1	3.7	3.2	▲ 2.4	4.1	1.5	▲ 0.4	2.3	1.2	-	-	-
固定資本形成(%)	9.8	▲ 2.2	▲ 2.1	2.6	2.5	1.1	▲ 2.6	0.3	3.0	-	-	-
鉱工業生産指数(%)	2.5	1.5	▲ 0.1	▲ 0.3	7.4	1.1	3.8	▲ 1.6	▲ 1.5	▲ 3.5	0.4	-
失業率(%)	3.7	3.8	3.8	4.0	3.7	3.4	3.0	2.8	2.7	2.8	2.9	-
貿易収支(百万USドル)	113,593	110,087	79,812	80,605	76,207	16,652	10,731	9,283	▲ 5,418	▲ 1,478	-	-
輸出(百万USドル)	580,310	626,267	556,668	517,909	650,015	178,019	174,970	180,161	172,917	52,594	-	-
輸入(百万USドル)	466,717	516,180	476,856	437,305	573,807	161,368	164,239	170,878	178,334	54,073	-	-
為替レート(ウォン/USドル)	1,130	1,101	1,166	1,180	1,145	1,183	1,205	1,261	1,340	1,426	1,358	1,294
生産者物価(%)	3.5	1.9	0.0	▲ 0.5	6.4	9.3	8.8	9.9	8.4	7.3	6.3	-
消費者物価(%)	1.9	1.5	0.4	0.5	2.5	3.5	3.8	5.4	5.9	5.7	5.0	5.0
株価指数(1980.1.4:100)	2,467	2,041	2,198	2,873	2,978	2,978	2,758	2,333	2,155	2,294	2,473	2,236

(注) 国内総生産、最終消費支出、固定資本形成、鉱工業生産指数は前期比伸び率、生産者物価、消費者物価は前年同期比伸び率、株価指数は期末値

国内総生産、最終消費支出、固定資本形成、鉱工業生産指数、失業率は季節調整値

国内総生産、最終消費支出、固定資本形成、生産者物価は2015年基準、消費者物価は2020年基準

貿易収支、輸出入はIMF方式、輸出入はfob価格

(出所) 韓国銀行、統計庁他

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）

各地で二毛作の播種

2022年9月27日発『朝鮮中央通信』によれば、各地の農業部門が二毛作の一環としての秋小麦、大麦の播種を行っているとのことである。

平壤市に楽浪博物館が開館

2022年9月28日発『朝鮮中央通信』によれば、平壤市に楽浪博物館が開館し、同日竣工式が行われた。

金正恩総書記が習近平総書記に祝電

2022年10月1日付『労働新聞』によれば、中華人民共和国創建73周年に際して金正恩朝鮮労働党総書記、朝鮮民主主義人民共和国國務委員長が習近平中国共産党中央委員会総書記、中華人民共和国主席に祝電を送った。祝電の内容は次の通り。

北京

中国共産党中央委員会総書記

中華人民共和国主席

習近平同志

尊敬する総書記同志、

私は中華人民共和国創建73周年に際して朝鮮労働党と朝鮮民主主義人民共和国政府、全朝鮮人民を代表して、総書記同志と中国共産党と中華人民共和国政府、兄弟的な中国人民に熱烈な祝賀を送ります。

これまでの73年間、中国の党と政府と人民は歴史のあらゆる挑戦と試練を克服しながら社会主義偉業の遂行において刮目に値する成果を成し遂げました。

第18回党大会以降、総書記同志を中核とする中国共産党の指導の下に中国政府と人民は、小康社会を建設し、社会主義現代化国家を全面的に建設する新たな歴史的旅程に入りました。

われわれは中国の党と政府と人民が収めたすべての成果について自分の事のように心から喜ばしく思っております。

中国人民は社会主義建設で新しい里程標をもたらすようになる中国共産党第20回大会を迎えることとなります。

総書記同志の指導があり、党の周りに団結した中国人民がいるがゆえに、中華民族の復興の夢は必ず実現されるであろうと確信します。

わが党と政府と人民は、国の自主権と領土保全を守り、統一を実現するための中

国の党と政府と人民の正義の闘争を変わらず支持、声援するでしょう。

こんにちは、朝中両党、両国は、社会主義偉業を擁護固守し輝かすための共同偉業の遂行において相互支持、声援しながら、不敗の親善・団結の歴史を引き続き刻み込んでいます。

私は今後も総書記同志と共に、伝統的な朝中友好関係を絶え間なく深化、発展させ、アジアと世界の平和と安定を守るために積極的に努力するでしょう。

総書記同志が、党と国家の責任ある活動でより大きな成果を収めることと中華人民共和国の隆盛・繁栄と中国人民の幸福を願います。

朝鮮労働党総書記
朝鮮民主主義人民共和国國務委員長
金正恩
チュチュエ 111 (2022) 年 10 月 1 日
平壤

第 13 回平壤第一百貨店商品展示会開催

2022 年 10 月 3 日発『朝鮮中央通信』によれば、同月 2 日、第 13 回平壤第 1 百貨店商品展示会が開幕した。今回の展示会には、各省、中央機関と各道の工場、企業所等で生産された工業製品、食料品をはじめとする 2500 余種、133 万余点の多様な商品が出品された。開幕式には李成鶴内閣副総理をはじめとして、省、中央機関の幹部、生産および商業単位の活動家と従業員が参加した。クァク・チョンジュン商業相が開幕の辞を行った。

全国情報化成果展覧会-2022 開幕

2022 年 10 月 4 日発『朝鮮中央通信』によれば、同月 3 日、全国情報化成果展覧会-2022 が情報産業省の主催で国家資料通信網を通じ、バーチャル展覧会の方式で開催された。今回の展覧会のスローガンは「社会主義の全面的発展と情報化の熱風」であった。省、中央機関、各級人民委員会、工場、企業所、団体が参加した展覧会には、人民経済各部門と科学、教育、保健、体育部門等でなしとげられた 1400 余の成果の資料と作品が出品された。会期は同月 31 日までであった。

外務省国際機構局長のロシアのドネツク、ルガンスク統合を支持する談話

2022 年 10 月 4 日発『朝鮮中央通信』によれば、外務省のチョ・チョルス国際機構局長は、「去る 9 月 23 日～27 日までドネツク人民共和国とルガンスク人民共和国、ヘルソン州、ザボロージェ州で行われた国民投票は、諸民族の平等と自決権

の原則を規定した国連憲章に合致するように、そして現地住民の意思が十分に反映されるように合法的な方法と手続きに従って行われ、絶対多数の有権者がロシアとの統合を支持した」として、北朝鮮として「ドネツク人民共和国とルガンスク人民共和国、ヘルソン州、ザボロージェ州の住民たちを尊重し、上記地域を自らの構成（主体）として受け入れようとするロシア政府の立場を尊重する」旨の談話を発表した。

外務省が韓米合同軍事演習についての広報文発表

2022年10月6日付『朝鮮新報』によれば、外務省が次のような広報文を出した。

朝鮮民主主義人民共和国外務省は、米国と一部の追従国家が朝鮮半島の軍事的緊張を高める「韓」米連合訓練に対するわが軍の適当な対応行動措置を国連安全保障理事会に不当に持ち出していったことに対して強く糾弾する。

われわれは、米国が朝鮮半島水域に空母打撃集団を再び入れ、朝鮮半島と周辺地域の情勢安定に嚴重な脅威を造成していることを注視している。

主体 111（2022）年 10 月 6 日

平壤

金正恩国務委員長がロシアのプーチン大統領に祝電

2022年10月7日付『労働新聞』によれば、金正恩国務委員長がロシアのプーチン大統領の70歳の誕生日に際して祝電を送った。祝電の内容は次の通り。

モスクワ

ロシア連邦大統領

ウラジーミル・V・プーチン閣下

私は生誕 70 周年を迎えるあなたに心からの温かい祝賀のあいさつを送ります。

あなたは長期間国家元首の重責を担い精力的な活動を展開して、強力なロシア建設の雄大な戦略的目標を実現するための刮目する成果を収めたことで、広範な大衆の高い尊敬と支持を受けています。

こんにちロシアが米国とその追随勢力の挑戦と脅威を粉碎して、国家の尊厳と根本的利益をしっかりと守っているのは、あなたの卓抜した指導力と強靱な意志を抜きにしては考えることができません。

私は 2019 年にウラジオストクで行われたわれわれの初の対面で遂げられた合意に従い、伝統的な朝露友好・協力関係をより高い段階へ昇華・発展させ、地域の平

和と安定を守り、国際正義を実現するための闘争において、両国間の相互支持と協力が前例なく強化されていることについてうれしく思います。

私は、歴史の風波の中で検証され、いっそう強固になった朝露友好を、時代の要求と両国人民の志向に合わせて絶えず強化・発展させていくうえで、われわれの間に結ばれた個人的な絆がより大きな役割を果たすようになるという期待を示すとともに、あなたが健康で幸福なこととロシアの繁栄を目指す責任ある活動で大きな成果を収めることを願います。

朝鮮民主主義人民共和国国務委員長

金正恩

チュチェ 111 (2022) 年 10 月 7 日

平壤

慈江道時中郡に板ガラス生産工程が竣工

2022 年 10 月 8 日付『労働新聞』によれば、慈江道時中郡の時中ガラス工場に板ガラス生産工程が新たに確立された。これは、各地方の原料に基づくさまざまな建材生産基地を実利が得られるように整備し、多様な建材を多く生産するべきという党政策を体したものであるとのことである。地元が多い原料資源を利用して、原料投入から製品完成に至るまでフロー式になっている板ガラス生産工程をもったもう一つの建材生産基地が築かれたとしている。建設は同工場の従業員と時中郡の青年突撃隊員が行ったとのことである。

清津木材加工工場が新たに改築

2022 年 10 月 8 日付『労働新聞』によれば、清津木材加工工場が新たに改築された。報道では、道所在地に家具工場をモデルとして建設し、建具を生産して、市、郡に供給するべきという党政策を体したもので、「党の恩情によって建てられた」としている。工場では、既存の数十台の木材加工設備を整備・補修し、能率の高い新しい設備の設置を短期間で終えて、建具と家具を量産することのできる準備を十分に整えたとしている。

咸鏡南道建材展示会が行われる

2022 年 10 月 10 日付『民主朝鮮』によれば、咸鏡南道咸興市で行われた咸鏡南道建材展示会に道内の数十個の単位で生産した各種の製品が出品されたとのことである。咸鏡南道製鋼工場と城川江タイル工場、国家科学院咸興分院と咸興化学工業大学、咸興建設大学の研究チーム、2.8 ビナロン連合企業所、咸興戦傷荣誉軍人プラスチック製日用品工場、木製品生産単位のほか、定平郡と端川市、咸興市東興

山区域、金野郡、高原郡、利原郡などが各種建材や技術を出品した。

連浦温室農場の竣工式が行われる

2022年10月11日付『労働新聞』によれば、同月10日、咸鏡南道咸州郡連浦里で連浦温室農場の竣工式が行われた。金正恩朝鮮労働党総書記が竣工式に参加し、テープカットを行った。同農場は280ヘクタールの敷地に850余棟の水耕および土壌温室と、地方の特色を生かした1,000余世帯の住宅、学校、文化会館、総合サービス施設などがそろった大型の農場である。建設は主に朝鮮人民軍の将兵が行った。

万景台革命学院と康盤石革命学院の創立75周年

2022年10月13日付『労働新聞』によれば、万景台革命学院と康盤石革命学院の創立75周年記念行事が同月12日、万景台革命学院で行われた。金正恩総書記が参加し、「万景台革命学院と康盤石革命学院はチュチェ偉業が億年青々とすることを保証する中核育成の原種場になれ」との演説を行った。

朝鮮労働党中央委員会が中国共産党第20回大会に祝電

2022年10月16日付『労働新聞』によれば、朝鮮労働党中央委員会が中国共産党第20回大会に祝電を送った。その内容は以下の通り。

北京

中国共産党第20回大会 宛

朝鮮労働党中央委員会は中国共産党第20回大会を熱烈に祝い、中国共産党のすべての党员と兄弟的中国人民に同志的あいさつを送ります。

中国共産党は受難多き中国人民を奮い立たせて新しい中国を立てたし、社会主義現代化国家建設のために奮闘して刮目する成果をおさめました。

これまで10年間、党建設と党活動を強化しながら中国人民を指導して国家の持続的発展と繁栄を成し遂げ、主権と領土保全を守り抜くための闘争を力強く展開して総合的国力と国際的地位を著しく高めました。

中国で収められた成果は、党の周りに結集して新時代中国の特色ある社会主義思想の指し示す道に沿って前進する中国人民を遮ることができないということを実証しています。

われわれはこれに対して心からうれしく思います。

中国共産党第20回大会は中国人民の新しい百年の道のりで重要な里程標をもたらす政治的出来事です。

朝鮮労働党は今回の大会が習近平同志を核心とする中国共産党の指導力をいっ

そう強めることによって社会主義中国の勝利的前進を裏付け、全人民を中華の復興に向かう目標遂行へと奮起させる歴史的大会になると確信します。

今日わが両党はいつにもまして複雑多難な国際的環境の中でも変わらず支持、協力しながら両国人民の共通の利益を守り抜き、社会主義の偉業を強く牽引しています。

朝鮮労働党は今後も中国共産党と共に両党領袖たちの心血が込められたわれわれの同志的絆をさらにしっかり固めて発展させて朝中関係のすべての領域でその生命力がより力強く誇示されるように積極的に努めるでしょう。

中国共産党第 20 回大会の立派な成果を収めることを心から願います。

朝鮮労働党中央委員会

チュチェ 111 (2022) 年 10 月 16 日

平壤

金正恩総書記が中央幹部学校を訪問、記念講義を行う

2022 年 10 月 18 日付『労働新聞』によれば、金正恩総書記が同月 17 日、中央幹部学校を訪問し、「新しい時代のわが党の建設方向と朝鮮労働党中央幹部学校の任務について」と題する記念講義を行った。

この演説の中で、金正恩総書記は過去 10 年間の党建設を「自己強化において歴史的意義を持つ継承期と発展期を経た」とした。その上で、2012 年 4 月に行われた朝鮮労働党第 4 回代表者会議について、「革命偉業継承の歴史的課題が前面に提起されたことに応じて、継承性が徹底した党の指導思想と最高綱領を確定し、その実現を確信をもって導くことのできる新たな指導部を構成した」と規定した。2016 年 5 月にあった朝鮮労働党第 7 回大会については、「わが党の歴史において 36 年ぶりに行われた大会として党の強化・発展において新しい段階を切り開いた」と位置づけた。また、2021 年 1 月に開かれた朝鮮労働党第 8 回大会については、「党の指導力と戦闘力を全面的に強化する上で新たな革命的転換をもたらした」「第 8 回大会を起点にして、わが党は 5 年を周期として革命発展と自己強化をけん引する定期的かつ効果的な活動体系を持つことになり、党建設と党活動の原理に即して改正された党規約と再調整、再整備された党の各中央組織の機能と役割に基づいて、党活動全般を持続的に、革新的に深化、発展させていけるようになった」という見解を示している。

また、この 10 年の党建設と党活動において収めた成果は第一に「思想と指導の唯一性を確固と守り抜き、継承したこと」であり、第二に「指導的機能と役割を非常に強めたこと」であり、第三に「人民に奉仕する革命的性格をいっそう強化した」としている。さらにこの 10 年で「党の指導力が非常に強化され、党組織の戦闘力

と活動性が向上した」と指摘している。その中で重視されたこととして、「革命の参謀部である党の指導的地位と機能に即して党大会と党中央総会、政治局会議をはじめ、重要党会議を定期的に稼働させる制度を復元し、その運営を改善すること」があったとしている。

「秋季全国履物展示会-2022」開幕

2022年10月19日付『労働新聞』によれば、朝鮮科学技術総連盟中央委員会と軽工業省の主催で「秋季全国履物展示会-2022」が開幕し、同月18日に平壤駅前百貨店で開幕式が行われた。同展示会のテーマは「靴の多種化、多様化、多色化、軽量化、堅固性」であり、元山製靴工場、柳園履物工場、ソチョンヘドン工場、羅先サムリョン履物工場、西城松島靴製作所をはじめとする数十単位で生産された1000余種、10万余点の製品が出品され、履物工業部門で成し遂げられた60余件の研究成果資料が提出された。会期は同月27日までとのことである。

内閣総会拡大会議が行われる

2022年10月20日付『労働新聞』によれば、同月19日に内閣総会拡大会議が行われ、金徳訓内閣総理が会議を指導した。パク・チョングン、楊勝虎内閣副総理をはじめとする内閣のメンバーが参加した。

内閣直属機関、省機関の活動家、道、市、郡人民委員会の各委員長、農業指導機関、主要な工場、企業所の活動家が傍聴した。

会議では党中央委員会第8期第4回、第5回総会決定貫徹のための第3四半期人民経済計画の実行情況を総括し、金正恩同志が最高人民会議第14期第7回会議で行なった歴史的な施政演説に提示された課題を貫徹し、今年の闘争を成功裏に締めくくるうえで提起される対策問題を討議した。

パク・チョングン内閣副総理兼国家計画委員会委員長が報告を行い、討論が行われた。

金正恩朝鮮労働党総書記が習近平中国共産党中央委員会総書記に祝電

2022年10月24日付『労働新聞』によれば、金正恩朝鮮労働党総書記が習近平中国共産党中央委員会総書記に祝電を送った。祝電の内容は次の通り。

北京

中国共産党中央委員会総書記
習近平同志

私は、中国共産党第 20 回大会が成功裏に行なわれ、党中央委員会総書記に再選されたといううれしい報せに接して、最も熱烈な祝賀を送ります。

中国共産党第 20 回大会は、中国の党と人民が総書記同志を中核とする党中央の周りにいっそう固く団結して、新時代の中国特色の社会主義思想の旗印の下、中華民族の偉大な繁栄の歴史的過程を推進する上で画期的里程標をもたらしました。

総書記同志が中国共産党を導く重任を引き続き担うことになったのは、全ての党員と人民の変わらない信頼と支持、期待を示しています。

総書記同志の指導の下、中国共産党と中国人民が中国特色の社会主義を堅持し、発展させ、社会主義現代化国家を全面的に建設する新しい道程で、輝かしい勝利を収めるであろうことを確信します。

こんにち、朝中の両党は団結と協力をいっそう強化しながら、いかなる情勢の変化と挑戦の中でも微動だにせず、社会主義を中核とする両国の関係発展を力強く牽引しています。

私は総書記同志と共に、時代の要求に応じて朝中関係のより美しい未来を設計し、その実現を導いて両国での社会主義偉業を引き続き強力に促していくでしょう。

総書記同志が健康であることと、中国の党と人民のための責任ある活動でさらなる成果を収めることを心から願います。

朝鮮労働党総書記

金正恩

チュチェ 111 (2022) 年 10 月 23 日

平壤

清津市遊園地に乗馬路が新たに建設

2022 年 10 月 24 日発『朝鮮中央通信』によれば、咸鏡北道清津市の清津市遊園地に新たに乗馬路が建設された。

大成山アイスクリーム工場竣工

2022 年 10 月 27 日付『労働新聞』によれば、同月 26 日、平壤市の大成山アイスクリーム工場が竣工し、竣工式が行われた。同工場は慶興貿易局に所属するようである。

「婦人服展示会-2022」が開幕

2022 年 10 月 28 日付『労働新聞』によれば、同月 27 日、「婦人服展示会-2022」の開幕式が平壤市西城区域の三大革命展示館で行われた。展示会場には、銀河貿易

局、烽火貿易局、平壤市被服工業管理局をはじめとする全国の衣料品生産単位、各地の洋裁店を含む 540 余りの単位で作られた 30 代、40 代女性の季節衣料が展示された。展示会ではまた、女性の服装に似合う靴、ハンドバッグ、ブローチ、髪飾り、帽子などの嗜好品と、女性が好む化粧品、良質の服地も出品されたとのことである。開催期間、衣服加工単位間の技術交流、需要者と被服生産単位との相談があり、製品に対する専門家審査、大衆審査と共に注文サービスも行なわれるとのことである。

金星トラクター工場 1 段階改築対象竣工式

2022 年 11 月 3 日発『朝鮮中央通信』によれば、同月 2 日、金星トラクター工場 1 段階改築対象竣工式が行われた。金徳訓内閣総理が参加し、竣工の辞を述べた。

咸興青年 1 号発電所竣工式

2022 年 11 月 7 日付『労働新聞』によれば、同月 6 日、咸興青年 1 号発電所竣工式が行われた。リ・ジョンナム咸鏡南道党委員会責任書記とキム・ヨンシク咸鏡南道人民委員会委員長、パク・ドン Chol 道農業経営委員会委員長、建設に参加した突撃隊員、定平郡内の活動家、勤労者、発電所従業員がこれに参加した。キム・ヨンシク咸鏡南道人民委員会委員長が竣工の辞を述べた。

咸鏡北道電子業務研究所新たに建設

2022 年 11 月 10 日付『労働新聞』によれば、咸鏡北道清津市に咸鏡北道電子業務研究所が新たに建設された。プログラム開発室をはじめとする研究開発室と事務室が備った電子業務研究所が建てられたことで、道内の各部門の生産と経営活動の情報化を実現することに寄与することができるようになったとのことである。

金正淑教員大学の改築現代化工事完成

2022 年 11 月 14 日発『朝鮮中央通信』によれば、同月 13 日、咸鏡北道会寧市の金正淑教員大学の改築現代化が竣工し、竣工式が現地で行われた。キム・ Chol サム咸鏡北道党委員会責任書記とパク・マンホ道人民委員会委員長、関係者、建設者、金正淑教員大学教職員、学生、道内の大学部門の活動家と教員、会寧市の勤労者がこれに参加した。パク・マンホ道人民委員会委員長が竣工の辞を述べ、その後決意討論が行なわれた。

最高人民会議常任委員会常務会議開催

2022 年 11 月 16 日付『労働新聞』によれば、同月 15 日、最高人民会議常任委

員会常務会議が 15 日に行われた。会議では便益サービス法、会計検証法、廃物取扱法、地震、火山被害防止および救助法、非常防疫法の修正・補充案を審議し、当該の政令を採択した。

開城市の龍首山ミネラルウォーター工場が竣工

2022 年 11 月 18 日発『朝鮮中央通信』によれば、開城市の龍首山ミネラルウォーター工場が竣工し、同月 17 日、竣工式が行われた。

咸鏡北道清津市の清津少年野外劇場が竣工

2022 年 11 月 19 日発『朝鮮中央通信』によれば、咸鏡北道清津市の清津少年野外劇場が竣工し、同月 18 日、竣工式が行われた。同劇場は海岸べりにあり、5000 席の観覧席と舞台、グループ室、楽屋、照明設備塔が備えられているそうである。

金正恩総書記が新型大陸間弾道ミサイル試射を視察・指導

2022 年 11 月 19 日付『労働新聞』によれば、同月 18 日、金正恩総書記が戦略武力の新型大陸間弾道ミサイル試射を平壤市順安区域の平壤国際空港で指導した。新型大陸間弾道ミサイル「火星砲-17」型は、最大頂点高度 6040.9 キロメートルまで上昇し、距離 999.2 キロメートルを 4,135 秒飛行して、日本海の公海上の予定水域に正確に着弾したとのことである。

習近平中国共産党中央委員会総書記が金正恩朝鮮労働党総書記に答電

2022 年 11 月 26 日発『朝鮮中央通信』によれば、同月 22 日、習近平中国共産党中央委員会総書記が金正恩朝鮮労働党に答電を送ってきた。内容は次の通り。

先日、朝鮮労働党中央委員会と総書記同志は中国共産党第 20 回大会が招集され、私が中国共産党中央委員会総書記として再び選挙されたのに対し、情熱にあふれた祝電をそれぞれ送ってきました。

これは、総書記同志と朝鮮党中央が私自身と中国党と人民に対する親善の情を抱き、中朝関係発展を高度に重視していることを示しています。

私は中国共産党中央委員会とそして私自身の名前で総書記同志と朝鮮党中央に衷心となる謝意を表し、総書記同志と朝鮮党と人民に心からの挨拶を送ります。

私は中朝関係を非常に重視しています。

近年、私と総書記同志は何度も再会し、一連の重要な共同認識を成し遂げ、中朝関係を導き、新たな歴史の場を開いておくことで、半島問題の政治的解決過程を推進し、両国人民の共同の利益を力強く守り、両国社会主義偉業を力強く守護し、地域と進んで世界の平和と安定を力強く守護しました。

今、世界の変化、時代の変化、歴史の変化は、前例のない方法で起こっています。

新しい形勢下で、私は総書記同志とともに中朝関係を設計し、導く事業を強化し、中朝関係を見事に守護し、見事に固め、見事に発展させ、両国人民により良い福利をもたらしてくれ、両国社会主義偉業の発展を推進し、地域、さらには世界の平和と安定、発展と繁栄を促進するために、新しく積極的な貢献をする意思があります。

総書記同志が朝鮮党と人民を指導し、朝鮮の社会主義建設偉業で新たなより大きな成果を収めることをお祈りします。

第 5 回保衛活動家大会行われる

2022 年 11 月 25 日付『労働新聞』によれば、第 5 回保衛活動家大会が同月 19 日から 23 日まで平壤市で行なわれた。朴正天朝鮮労働党中央委員会書記とリ・チャンデ国家保衛相、朴寿日社会安全相、ウ・サン Chol 中央検察所長が大会に参加した。国家保衛省をはじめとする各級保衛機関と武力部門保衛機関の指揮メンバー、保衛活動家に参加した。司法、検察、社会安全部文活動家が傍聴した。

金正恩総書記が第 5 回保衛活動家大会参加者に送った綱領的な書簡が伝達された。

(ERINA 調査研究部主任研究員 三村光弘)